川で園児死亡

遺族ら園を提訴

地裁西条支部 1億5589万円請求

2012年7月20日、西条市中奥の増水した加茂川で、西条聖マリア幼稚園（同市大町）の「お泊まり保育」中に吉川慎之介ちゃん＝当時(5)＝が流され死亡した事故で、遺族と事故でけがをした元園児1人、お泊まり保育に参加していた元園児5人の保護者の計11人が19日、園を運営する学校法人ロザリオ学園（松山市）と、当時の理事長、引率教員の計9人に慰謝料など計約1億5589万円の損害賠償を求め松山地裁西条支部に提訴した。

訴状によると、園側は、現場が危険な地形であることや、数日続いた雨による増水の危険を保護者が指摘していたにもかかわらず、学校保健安全法が義務付ける学校安全計画と危険等発生時対処要領を策定しないまま、危険認知能力が低い未就学児31人を連れて漫然と「水遊び」を実施した。

園側は事故後も配慮を欠いた発言をし、適切な説明や謝罪もなかった。救助された園児も川への恐怖心が残るなど精神的後遺症を一生背負うことになった、としている。

原告側は「園の安全管理体制の不備は悪質で、実際の損害の賠償だけでは再発を防げない。請求額に懲罰的損害賠償として1億円を加えた」と主張。園側は「訴状の内容を把握しておらず、コメントできない」と述べた。

遺族は今年3月、学園の当時の理事長と引率教員の計9人を業務上過失致死の疑いで西条署に告訴している。

一周忌前日迎えた遺族

「ごまかさないで」

真相知る最後の手段

「なぜという問いに、園も先生も一切答えてくれなかった。信頼していたのに」。幼稚園のお泊まり保育中に起きた事故で、短い人生を終えた吉川慎之介ちゃんの一周忌前日の19日、遺族は園を運営するロザリオ学園などを相手に民事提訴に踏み切った。母優子さん(41)は「真相を知るには裁判しかなかった。残念です」と切々と語った。

優子さんは西条市のホテルで19日開かれた記者会見に夫豊さん(43)と出席した。「子どもを突然失った悲しみと苦しみ、いとおしい思いは、何ひとつ変わりません。時は止まり、自問自答が続き、月日が流れました」と1年を振り返る。

事故後、1週間以上が経過して学園が開いた説明会で、優子さんは強いショックを受けた。「納得できる説明もなく、その後も学園や教員は話せないというばかりだった」

「事故原因を知りたい」。遺族は、お泊まり保育に参加した園児の保護者と協力して現場を調べたり、証言を集めたりした。賠償の請求額に懲罰的な意味を込めて加えた1億円全額を原因究明と再発防止、教育現場の安全管理を求める活動に使うという。

保護者ら約30人と6月につくった学校の安全管理などを求める団体は現在、約600人規模になった。提訴後には西条市に真相究明の第三者委員会設置の要望書を提出した。

法廷は、園側に説明を求める最後の手段。優子さんは「ごまかさず説明してほしい」と話した。

吉川慎之介ちゃんの遺影を胸に抱いて会見に出席する母優子さんと父豊さん＝19日午前11時50分ごろ、西条市大町

事故未報告で職員2人訓告

った問題で、市は19日、内規に基づく報告義務を怠ったなどとして、導せず、適正な判断をしていなかったとした。